

平成29年度 玉城町議会行政視察報告書

視察日程：平成29年6月28日（水）から6月29日（木）

視 察 先：長野県 南箕輪村議会・長野県 飯綱町議会

三重県度会郡玉城町議会

目 次

議席順

中村 長男	・・・・・・・・・・・・・・・・	1~ 2
竹内 正毅	・・・・・・・・・・・・・・・・	3~ 5
中西 友子	・・・・・・・・・・・・・・・・	6
前川さおり	・・・・・・・・・・・・・・・・	7~ 8
小林 豊	・・・・・・・・・・・・・・・・	9~10
井上 容子	・・・・・・・・・・・・・・・・	11~12
北川 雅紀	・・・・・・・・・・・・・・・・	13~17
坪井 信義 (副議長)	・・・・・・・・・・・・・・・・	18~19
中瀬 信之 (議長)	・・・・・・・・・・・・・・・・	20~22
風口 尚	・・・・・・・・・・・・・・・・	23~25
奥川 直人	・・・・・・・・・・・・・・・・	26~29

平成29年度 玉城町議会行政視察報告書

玉城町議会議長 様

議席1番 中村 長男

視察日	平成29年6月28日(水)～平成29年6月29日(木)
視察場所	長野県 南箕輪村議会及び飯綱町議会
視察目的	6月28日【南箕輪村議会】人口の増えるまち 少子高齢化対策について 6月29日【飯綱町議会】 議会改革の取組みについて
<p>§ 1、長野県 南箕輪村議会</p> <p>所在地 長野県上伊那郡南箕輪村 地勢的には西に中央アルプスと、東に南アルプスにはさまれた伊那谷にあり、かつての伊勢市と御園村のような関係で、伊那市の要衝部を占めるコンパクトな自治体。</p> <p>明治8年の南箕輪村成立以来、合併は無く自立の道を歩んでいる。</p> <p>平成29年1月1日現在 人口は15,315人(5913世帯)、周辺自治体が人口減少をたどる中で自然増、人口動態の転入増による人口増が平成の期間で約5,000人を数える。高齢化率も23%と県下最低を示しており、2040年頃までは減少に転じないと想定されている特異な自治体。</p> <p>村内の合計特殊出生率は1.67で、国平均を0.2以上上回り、子育て世代の転入による人口増が裏付けられているが、周辺自治体に比べ保育料の引き下げなどの子育て支援策を早くから充実させてきたがロコミ効果以上の要因は明確でない。</p> <p>社会インフラは整っており、交通の便はよく、商業施設、医療設備、保育・教育機関は高校、大学まで揃っている。もともと伊那市のベッドタウンであり、地価も周辺より割安で、若くして一戸建てのライフスタイルに転入する家族が常態である。</p> <p>ただし人口増には施設整備の積極型予算が必要で、税収増以上に保育・教育のハード面での各種設備投資の捻出が悩みの種となっている模様。</p> <p>また地域コミュニティーへの参画を推進する取り組みや、地元で職を求める受け皿づくりが当面の行政課題との説明があった。</p> <p>南箕輪村の総面積は41km²で玉城町と同規模であるが、1/2は経ヶ岳(南アルプス)で飛び地となっているのが特殊。今後広域の防災、ゴミ処理、救急医療など周辺との公平な行政負担が協議されるとき現状のまま独自路線でいけるか懸念されます。</p>	

§ 2、長野県 飯綱町議会

所在地 長野県上水内郡飯綱町

「平成大合併」により平成17年10月に牟礼村・三水村の合併により誕生。長野市に隣接、人口は約11,600人。米とりんごの生産を主とした農業が基幹産業の町。合併を契機に再編された議会に「第三セクターの経営破たん」による議会の議決責任を問う大ブーイング。・・・(議会改革の出発点となる。)

平成20年2月～8月

町民の議会への不信感が75%まで膨れ上がるなかでの住民アンケートを通じ、行政と首長・議会それに住民の関係性の本質をつく意見、注文が寄せられた。

役割をきちんと果たせない議会は行政の劣化をもたらしている。との反省から議会内での学習会、自由討議を重ね、☆町民が求める議会像(6点)☆町民に信頼される議会改革(8項目の改革宣言)・・・(議会改革特別号で実行を宣言した。)

平成21年10月

町長選と町議会選で議会改革の加速・推進

二元代表制を形式的なものから実体のあるものにして機能させる。

議員の力量向上で追認機関から脱し、町長に積極提言もする。

議会の政策提言活動の重視

「政策サポーター制度」の新設

①開かれた議会とするために議会活動への町民参加を広げる。

②議員定数が減るなかで町民の知恵も借りて政策づくりを協働で進める。

提言される政策は課題の整理・調整を済ませ、議員は予算審議、一般質問等で議論を進め、町長に実現を求める。

開かれた議会、議会の見える化。

模擬議会(中学生、住民が質問者)・休日議会・夜間議会を開催し傍聴の機会を増やす。

地区別の町民と議会の懇談会

地域別、テーマ別、各種団体等多様な形で開催する。

「議会だより」モニターを組織

議員の出ていない集落は重点に人選し、議員が分担し直接モニタリングする。

意見・要望を集約し、議会の応援団になってもらう。

平成24年9月

4年余の議会改革の実践性かを踏まえ、「議会基本条例」を制定した。

※平成27年6月基本条例を一部追加、改正

毎年4月に「議会基本条例」に基づき年間活動計画を作成し、確実に実行。

最後に先進事例の物まねでなく、自分たちで議論を尽くし、跡に続く人が迷わなくてもよいように粘り強く実践を積み上げていくことが重要だと指摘されました。政策サポーターは次世代の議員予備軍との達観。さすがです。 以上

平成 29 年度 玉城町議会行政視察報告書

玉城町議会議長 様

議席 3 番 竹内 正毅

視 察 日	平成 29 年 6 月 28 日 (水) ～ 平成 29 年 6 月 29 日 (木)
視察場所	長野県 南箕輪村議会及び飯綱町議会
視察目的	6 月 28 日【南箕輪村議会】人口の増えるまち 少子高齢化対策について 6 月 29 日【飯綱町議会】 議会改革の取組みについて
<p>【南箕輪村議会】人口の増えるまち 少子高齢化対策について行政視察結果 南箕輪村議会を訪ねて、なぜ人口が増える村であるのか理解できた。</p> <p>それは、南箕輪村は飛び地もあるが、拠点は立地条件の良い中央高速道路沿いにあり、また伊那インターチェンジもあり、大型商業施設のある伊那市や箕輪町とも国道 1 本で行ききできる。「学校やスーパー、総合病院など車で 20 分圏内に生活に必要なものが揃っている。」そして、不動産は、隣接市町より地価安く（県平均 1㎡あたり 30,800 円 当村は 19,100 円と 38%も安い）1 戸建てを買う 20 代～30 代に人気が高いと言っていた。</p> <p>転入元は 30%伊那市、22%が上伊那地区からで、知人、友人等の口コミから増加したとのこと。このことについては、村が先立って移住促進をしてないとの説明であった。</p> <p>2005 年に「たけのこ園」の支援施設を造ってから移住者が増え、また合併に反対した村民にも自立心ができたとのこと。</p> <p>そこで、行政は少子高齢化対策等の環境づくり対策に乗り出したとのこと。</p> <p>1. 安心して子育てができる村として保育料の引き下げ</p> <p style="padding-left: 2em;">保育料 2 人目は半額 3 人目は無料</p> <p style="padding-left: 2em;">医療負担 18 歳まで村が負担</p> <p>しかし、それが理想的でないと言っていた。それは 30 代～40 代の生産者人口が周辺地域からの移住者が多いが、東京等の大都会からの移住者が少ないのが問題かなとも言っていた。</p> <p>2. 土地の値段が安いのが利点</p> <p>県内平均で 1㎡あたり 30,800 円が、当村は、19,000 円と安い。</p> <p>移住者は、30%が伊那市から、22% は上伊那地区からと周辺地域からが多い。</p> <p>3. また、組への編入も課題である。そこで若い人の移住促進のため「地域づくり推進室」を立ち上げ、地区での取り組みを行い、区への編入にも取り組んでいるとのこと。 22 世帯のうち 21 世帯が編入している。</p> <p>4. 30～40 代の人々が 77 地区で増えている。（年少、生産者人口の増）</p> <p>5. 29 年度には、南箕輪村こども館を完成 7 月 18 日開館予定。</p>	

それは村長が、若いころ共働きで苦勞した経験をもとに子育て支援策として、女性が働きながら暮らせる子育て支援策として施設を創ったとのこと。

6. 最後に、少子高齢化対策が、人口増加に繋がっていることが魅力である。

都市部ではないのに、人口が増えていることが魅力である。

それには、交通の便の良さ、子育て施策の充実が人口増に繋がっていることが判った。

以上が、南箕輪村での視察研修レポートである。

【飯綱町議会】 議会改革の取組みについて行政視察結果。

29年6月29日 飯綱町議会で議会改革の取組みを進めていることについて、どの様な取組みをして成果を上げているのかを問題視して視察研修してみた。

議会改革とは、議会の仕組みや制度を改善していくこと。

そして議員自身が改革することである。つまり議員の力量・資質を高めていくことも一つの議会改革になり、それが議会全体として自治体の意思決定能力を高めることになる。

しかし、その根っこには、議会や議員に対する町民の不満や不信感がある。これらの住民の声に対し、議会がどう応じていくかが課題であると思っている。

そこで私は、この点について勉強したいと思い課題をもって聞いてきた。

飯綱町は、平成20年1月から議会改革を実践してきたとのこと。

そこで分かったことは、

1. 議会改革は、議員の意識改革である。継続して仕組みを作ることであり、活動を定着させることが重要であると言っていた。

① 10年前に住民にアンケート調査したら75%が不満をもっていたとのこと。そこで190人を対象にアンケート調査をし直し、70%~80%のよい評価をいただいている。

② 現在は、議会力は向上したが、議員の意識力は今後の課題である言っていた。また15人の中に4人の新人がいる。4人の新人に対し、議員必携を基に年間8回研修会を実施。しかも半強制的にした結果、よい結果が出ていると思う。

③ 議長、副議長は、立候補制で、議員はどうあるべきかを所信表明をすることを義務づけている。特に議長は、町民に対しマニフェストを作り公表している。

2. 議会改革への動機は、第三セクターの破綻がきっかけであったとのこと。

① 金融機関と村が損失補償契約を結んでいたことが原因で、裁判を起こされ8億円を支払うことが判明し、住民から厳しい批判を受けた。また議会にも議決責任、説明責任を問われたのが動機であったとのこと。

② 住民アンケート調査により75%住民に厳しい評価を受けた結果から出発した。半年間で30数回の学習会と自由討議を重ね、めざす議会像6点と8項目の議会改革を宣言し、20年9月議会から実践したとのこと。

3. 24年9月に「議会基本条例」を制定した。

特に毎年4月に年間活動計画を作成して目標達成に向けて努力していることに驚いた。

基本条例を見ると、色んな厳しい制約を設けていることが見える。

- 特に、議員白書を作り、活動に対して議員自身が自己採点をしている。
- 集落50地区に対して、懇談会を実施。
- 毎年8月に町民講座を開催、区長等の役員を招待している。350人～400人
- 学習体験として15歳に中学生議会を実施。

以上が議会改革の基本であると感じた。

その他として、特に気になったところは次のとおり。

1. 一般会計補正予算については、議会改革8項目を満たしているかが議論となり否決されることが起こるとのこと。
2. 議会は、毎年12月頃に「予算・政策要望書」町長に提出。
検討結果を2月～3月に書面で議会に提出するようにしている。
3. 一般質問した結果、検討を約束した課題については、半年ごとに検討結果を議会へ書面で結果報告を求めている。
4. 「政策サポータ制度を新設。
議会活動への住民参加を広げるため。
町民の知恵を借りて政策作りを協働で進めるため。
テーマ設定は議会が行い、それに対して政策サポータを公募する。
5. 議会の見える化推進
模擬議会、休日・夜間議会を開催する。町民に傍聴の機会を広げ参加の促進。
「議会だより」モニターを新設。

以上、今まで議会改革を推進してきたのを聞いたが、議会が先にどんどん進んで行っているように見える。

私としては、行政とよく相談して一体になって進んで行かないと、不満や問題が起こる可能性が出てきそうに思えてならない。

以上が、飯綱町議会での視察研修で判ったことである。

平成29年度 玉城町議会行政視察報告書

玉城町議会議長 様

議席4番 中西 友子

視察日	平成29年6月28日(水)～平成29年6月29日(木)
視察場所	長野県 南箕輪村議会及び飯綱町議会
視察目的	6月28日【南箕輪村議会】人口の増えるまち 少子高齢化対策について 6月29日【飯綱町議会】 議会改革の取組みについて
<p>南箕輪村の視察について</p> <p>南箕輪村の説明を受けて、</p> <p>「働くところがある」「土地が安い」「子育て環境が整っている」というのは、子育て世代にとってはすごくありがたいことです。</p> <p>自分の村だけで出来ないところは近隣市町村と連携してやっていく。今は一つの自治体で全てを補うのは難しくなっていると思います。</p> <p>他の市町と連携してやっていくのがこれからの主流になってくるのかと思います。</p> <p>これから町内・近隣市町でも「療育施設」(発達障害・障害者が通える)などが必要になってくるので、是非行政・議会で検討していきたいと思います。</p> <p>飯綱町の視察について</p> <p>議会改革の取組みを勉強しに行ってきたわけですが、</p> <p>去年と今年行った所は町を二分する問題やその他大問題があって「するしかない」という窮地に立ったところからの出発だったので、玉城町議会ではたして真似をして出来るのかな？というのは今もひっかかったままです。</p> <p>それでは視察してきたことが活かされないのか？と考えると「全部やってみてダメなら(住民理解が得られないものや議会自体で効果がないと判断したものは)やめたらいいのでは？」と個人的に考えています。</p> <p>議会報告会でも住民の方からの指摘もあったように</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会広報の発行 ・議会報告会の定期的な開催 <p>は、賛成反対が僅差でも継続してやっていくべきではないかと思っています。</p>	

平成29年度 玉城町議会行政視察報告書

玉城町議会議長 中瀬 信之 様

議席5番 前川 さおり

視察日	平成29年6月28日(水)～平成29年6月29日(木)
視察場所	長野県 南箕輪村議会及び飯綱町議会
視察目的	6月28日【南箕輪村議会】人口の増えるまち 少子高齢化対策について 6月29日【飯綱町議会】 議会改革の取組みについて
<p>平成29年度 玉城町議会行政視察について報告致します。</p> <p>1. 6月28日【南箕輪村議会】人口の増えるまち 少子高齢化対策について</p> <p>南箕輪村は中央アルプスと南アルプスを望む伊那谷に位置し、東西に大きく飛び地になっており、面積は40.99平方キロ。人口はおおよそ15,300人で長野県内の村としては最も人口が多く、1960年(6043人)から2.5倍に増えている、平成の大合併では隣の伊那市との合併が議論されたが、住民投票の末に自立を選んだ。30代、40代の層が多く、高齢化率は平成29年4月現在で、23.1%と県下で一番低い。村内には6つの保育園、小学校2校、中学校、高校各1校ずつあり、また、全国で唯一保育園から大学まで所存する村となっている。地理的条件に違いはあるものの、人口、面積また財政(歳入)面、議会構成など玉城町と非常に似通っており、企業誘致にも力を入れてこられたという点に関しても通ずるものがございました。いち早く、少子化対策の一環として「女性が働きながら子育てのできる環境づくり」「子育て中心の村づくり」に着眼され、平成17年度から平成29年度の間で計6度の保育料の値下げ、平成26年度には保育園長時間保育料の引き下げを行っておられました。また、福祉医療費の無料化を18歳(学生のみのような)に拡大され、他にも要因は多々おありのことと思いますが、「子育てをするなら南箕輪村で」とのロコミも広がり、子育て世代の転入が多く、右肩上がりに人口が増加しているということでした。18歳まで福祉医療費の無料化にする財政的負担に関しての問いに対し、高校生くらいになるとそれほど病院に行かないので、さほど、負担は上がらないとの回答で、「是非、されたらいいですよ」とおっしゃられた担当の方の言葉が非常に印象に残っています。是非、玉城町としても今後検討していきたいと私自身は感じました。</p>	

2. 6月29日【飯綱町議会】 議会改革の取組みについて

飯綱町は長野県北部に位置する上水内郡にあり、「平成大合併」の平成17年10月に牟礼村、三水村の合併により誕生した。面積75平方キロ、人口おおよそ11,600人で米とりんごの生産を中心とした農業が基幹産業の町である。こちらでは議会改革の取組みについて研修を受けた。飯綱町議会は、町にあった第三セクター（スキー場）の破綻をきっかけに、行政はもとより議会の責任も問われることを認識し、平成20年1月議会改革について検討をはじめ、2月に町民アンケートを実施し、その結果、議会の現状を否定的にみている町民が76%以上にのぼったことを受け、議会全員協議会や常任委員会、議会運営委員会等で半年間に渡り30数回の自由討議や学習会、視察、研修会等を重ねて論点の明確化を図り、町民が求める議会像を「住民に開かれた議会」「町長と切磋琢磨する議会」「活発な討論が展開される議会」「住民の声を行政に反映する努力を貫ける議会」「飯綱町の住民自治発展の推進力となれる議会」「政策提言のできる議会」に集約し、議会改革の課題として、「一般質問に一問一答方式を導入し、町長に反問権を認める」「町民に対して議会の議決責任と説明責任を果たす」「議会への住民参加を広げる」「議会の情報公開をさらに進める」「議員の資質向上に努め議員同士の自由討議を活発に行う」「議員の政策立案能力を高め、政策提言、条例制定などに取り組む」「行政への批判と監視機能を一層強化する」「政務調査（活動）費を条例化し、政策研究、町民への広報活動等に活用する」を掲げた。以後、町民と議会との懇談会や政策サポーター制度、議会広報モニター制度の導入、飯綱町議会基本条例の制定などの議会改革を進めているとのことでした。中でも私は、新人議員に対して勉強会があること、また政策サポーター制度などは興味を持ちました。玉城町でも報酬について議論がなされることもありますが、飯綱町でも行っているように、「若者の議員のなり手不足のために、報酬を上げる！」という前に、やはり休日、夜間議会の開催も考えるべきと思います。玉城町でも先月初めての「議会報告会」が行われましたし、良いと思われるべきところは吸収していきたいと考えますが、ただ、議会改革ということだけにとらわれず、毎日の地道な活動こそが本来の議員のつとめということも忘れずに議員活動に邁進する所存でございます。今回手配くださいました、議会事務局のみなさまがたに御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成29年度 玉城町議会行政視察報告書

玉城町議会議長 様

議席6番 小林 豊

視察日	平成29年6月28日(水)～平成29年6月29日(木)
視察場所	長野県 南箕輪村議会及び飯綱町議会
視察目的	6月28日【南箕輪村議会】人口の増えるまち 少子高齢化対策について 6月29日【飯綱町議会】 議会改革の取組みについて
<p>南箕輪村</p> <p>人口については長野県内の村では最多。全国の村の中では第7位。人口は微増傾向にあり、2040年の人口推計で、県内の市区町村で唯一、人口増加が予想されている。</p> <p>人口増の要因には、移住定住促進施策に積極的に取り組み(子育て支援サービスの充実・18歳まで医療費ほぼ無料・インターチェンジがありアクセスがいい・台風等の自然災害が少ない・日本で唯一保育園から大学院まである村等)、中でも子育て支援サービスの充実が秀でていように見受けられたが、内容的には当町とさほど差がないように感じた。ただ、ホームページ内の映像等を用いた移住定住促進サイトのPR方法が非常に斬新で子育て世代の関心を引くように思った。また、当サイトでは他に就農移住者へのサポート・セカンドライフ世代へのサポートなどを盛り込み、移住定住に対する意気込みを感じた。こういったホームページ・サイトは、当町においても参考にすべき点多々あると思われる。</p> <p>南箕輪村は中央アルプスのふもとに広がる豊かな自然や田園風景に囲まれ、子育てに適した自然環境である一方、精密機械工業が盛んなため村内や近隣市町村に働く場所が多く、近隣市町村にショッピングができる商業施設も数多くあるなど、ベッドタウンとしての側面もありトータル的にバランスのとれた素晴らしい町だと思った。</p> <p>最後に村長がこれからの課題として述べられていた「子育て支援で成長した子供たちが、やがて都市圏の大学・専門学校等に進学し卒業後、就職の際、いかにして村に戻ってきてもらうかという対策を今後取り組んでいきたい。」このことが非常に印象に残った。当町においても同様に何らかの対策考えていく必要がある感じた。</p>	

飯綱町

かなりの期待をもって、視察研修に臨んだが飯綱町議会には申し訳ないが期待外れだった。確かに議会改革の一環として色んな取り組みはしているが、それ以前に行政側との話し合いが欠如しているように感じた。今回、行政側の話は聞けなかったが、行政側にも責任はあるとは想像するが、事を起こす前にもっとすり合わせすべきだと感じた。また、言葉は悪いが、メディア等に取り上げられ、優越感に浸っているようにも感じた。

議会が活発に活動することを否定はしないが、そのことにより行政側が議会対応に振り回され、小さな自治体がゆえに本来の業務がおろそかになり、廻り回って住民にとってマイナスになっていないか少し危惧もした。

「政策サポーター制度」についても、議会側が公費を用いて行う行為なのか疑問におもふ。町民の知恵を借りるということには共感できるが、本来、議員活動の中で自分の支持者、後援会から意見等くみあげ、議員間で協議し議会提案する。こういう流れが自然のように感じる。行政側が実施するのだったら納得するが、議会として、少し踏み込み過ぎのように感じた。

人口規模、財政規模に応じた身の丈にあった行政運営が必要であり、その行政運営を監視するとともに支えていくのが議会の大きな役割であって、住民を不安にさせたり、混乱させたりするような議会発信は避けるべきであって、行政と議会は一定の距離を保ちながらも常日頃からの対話が不可欠ではないかと痛感した。

いずれにしても、自分にとっては議会のあり方を再認識する機会であった。

平成29年度 玉城町議会行政視察報告書

玉城町議会議長 様

議席7番 井上 容子

視察日	平成29年6月28日(水)～平成29年6月29日(木)
視察場所	長野県 南箕輪村議会及び飯綱町議会
視察目的	6月28日【南箕輪村議会】人口の増えるまち 少子高齢化対策について 6月29日【飯綱町議会】 議会改革の取組みについて
<p>【南箕輪村議会】</p> <p>玉城町と比べ、人口・面積など類似点が多いが、飛び地である村の西半分は山林などで人は住んでおられず、東側が生活区域であるとの事。</p> <p>長野での人口の自然増は南箕輪村のみであり、子育て支援についても熱心に取り組んでおられる。</p> <p>私が注目したいのは、病児・病後児保育、療育施設が5年以上前からある事。病児保育を実施している病院には小児科があり玉城病院と規模も違うので実現しやすさも違うのだろうが、かかりつけ医の診療で預かってもらえるので保護者の手続きがスムーズである。もともと病院の職員向け病児保育室として開設されたところに、翌年から箕輪町・南箕輪村からの委託で住民向けの病児保育として開始された。現在10名の定員ではあるが、隔離の必要がある疾患の場合、3部屋で可能な範囲の預かり人数までとなる。病児保育の実施がない場合、担当スタッフは病児保育にかかわる事務、また病院併設のため病院業務や小児デイサービス・小児外来の補助をしており、常に医療の現場に居る事になる。定期的に、熱性けいれんへの対応・小児救急法・発達障害にかかわる研修などを受けている。</p> <p>療育施設も専門のスタッフがおり、発達の心配なお子さんの通園はもちろん、親子通園・保育所との並行通園など早期療育に取り組み、保育所巡回による早期相談支援、SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)、学校での教育支援と子どもの成長にあわせて取り組まれていることが魅力的だ。五つある保育所のうち、定員がいっぱいのところは、既に兄弟姉妹の入所していない未満児に他の保育所に移ってもらうなど、兄弟姉妹で通園できる配慮もされている。この7月に完成した子ども館では子育て世代の支援の他、多世代交流もできるよう配慮がされ、「子育て中の親」のためだけでなく「子どもの将来」のために色々考えられていると感じた。</p> <p>今後は、地域からの移住だけでなく、県外からの移住者獲得が目標との事だが、これも玉城町に通じる場所があるので見習いたい。ただ、大きく違うのが村の中に高校大学という進学先がある事。地元に残る確率は高くなる。地元を活かすものとして、信州大学の農学部で作った果物で地域の酪農家の牛乳を使ったアイスの販売など、コラボされているものがあつた。六次産業化といえるかどうかかわからないが、その他にも特産のそば粉を使</p>	

ったガレットなど、地域おこし協力隊員の力もあるようだ。村の産業も大切にしながら、活性化を図っておられるように思う。

【飯綱町議会】

りんごの産地として有名だが、若者の人口が少ない。議会議員も53歳から73歳までの十三名(内女性三名)。

議会政策サポーター制度(報償費を予算化)、議会だよりモニター(担当議員を決め、アンケート回収まで訪問する)、一般質問傍聴案内の発行などにより、以前より町政に関心をもつ町民が増えたとのこと。意識してもらう事による効果は大きいと感じた。

政策サポーターには毎回テーマがあり、町に対して提言書を提出。最初は公募もしていたが、応募者減少のため現在は全員議会からの要請した人(主に、議員のいない地区住民・女性・若い人を中心に)のみで構成されている。

議会の見える化については、休日議会で「係長以下クラスの残業代が五十万円かかったことから必要部署のみ待機」など不具合に改善を加えた夜間議会の開催も行った。中学生議会、町民が質問者の模擬議会なども開催されているが、いずれも行政職員の協力なしではできず、議会だけの努力ではここまでできないと思われる。

賛成できなかった議案には、調査を徹底して行う・修正案を議会で作成するなど、各議員の得意分野を生かした取り組みもされていた。

議会の議事録は、要望があった場合議会事務局で閲覧できる。ただしインターネットで一般質問のみ会議録の閲覧と録画(YouTube)の配信がされている。議会広報が充実していれば必要ないのかもしれないが、編集者の表現で受け取る側の印象もかわるので、やはり議事録ファイルの配信は必要だと思った。また録画は一年後に削除と明記されているが、まだ昨年はじめたばかりでどういう意図で削除としたかは不明との事。委員会の審査報告がPDF化されているのは玉城でも採用した方がよいのではないかと思う。

全体的に若い働く世代向けでないように感じたが、人口比率からいけば当然かもしれない。まずは「議会に興味をもってもらう」ことに関して、学ぶべきところが多いと感じた。

平成29年度 玉城町議会行政視察報告書

玉城町議会議長 様

議席8番 北川 雅紀

視察日	平成29年6月28日(水)～平成29年6月29日(木)
視察場所	長野県 南箕輪村議会及び飯綱町議会
視察目的	6月28日【南箕輪村議会】人口の増えるまち 少子高齢化対策について 6月29日【飯綱町議会】 議会改革の取組みについて
<p><少子化対策について></p> <p>2014年5月に「日本創成会議」(座長・増田寛也元総務相)が発表した、約1700の自治体のうち896もの自治体が2040年までには消滅可能都市であるということが話題となった。</p> <p>これは、2040年までに少子化や都市への移住の増加などから20～39歳の「若年女性」がどれだけ減るのかを%であらわし、半減する都市は行政機能の維持が難しくなり、自治体が消滅可能都市にのぼるとの試算を公表したもので、度会町 -54.0% 大紀町 -72.8% 南伊勢町 -71.9%で玉城町は-13.7%ととなっている。</p> <p>玉城町も減っていくし、近隣3町は消滅可能都市であり、これは地方自治体にとって最重要の課題である。なぜなら、インフラを整備しても産業振興しても人がいなくては意味がないし、福祉を手厚くしても納税者世代がいなくなれば制度は成り立たないからである。</p> <p>だからこの課題は、福祉費を削減してでも、インフラ整備を縮小してでも絶対に解決しなければならない課題だが、なぜ、後手後手になっているかということ、かなり未来のことだから年配者には想像しづらいということ、複合的な問題だから対策案を考えるのが難しいということと、政治家の票にならないということがある。</p> <p>そう言った意味においては、住民にこの問題を考えてもらうのは酷なので、国や県や町の政治家が票のことなど気にせずに取り組むしかないわけであるが、この日の研修や議会報告会でも「玉城町は人口が増えている」と複数の議員が発言していたことから、まずは、議員一人一人が認識をきちんと持つことから始めなければいけないと感じた。</p> <p>玉城町の人口ピークは2年ほど前なのに増えていると思っている議員。そんな議員の話聞いた住民は素直に受け入れるだろうから危機感を持たない。危機感を持たないということは対策が始まらない。対策が始まらないときちんとしたデータを真剣に見ない。真剣に</p>	

見ないから間違った認識で適当な話をする。こんな負の連鎖が町内で起こっていたら最悪である。

近隣の市町村は、この消滅可能都市の数字を発表されたことで少子化政策に力を入れている。その現状は良きも悪くも住民を奪い合う自治体間競争であり、その流れによっては玉城町の将来人口も想定より大幅に減るかもしれない。

だからこそ、この競争から逃げずに、人口を増やすんだという目標を設定して様々な政策を実行し将来に備えなければならないと私は考えるが、まずは意識を変えることが玉城町の場合は必要であろう。なぜなら意識が変わらなければ具体的な政策を提案しても賛同されることはないし、実行できないからである。



南箕輪村であるが、特段目立った政策はしておらず、複数の子育て政策をしていることや、立地面や運やイメージから人口が増えている。南箕輪村長は「子育て財政の比重が大きくて苦労している」と話していたが、それが成長していく社会として正しい税金配分であろうから問題ないと感じた。

また南箕輪村長が「子育て世代が現在増えているので、その世代が高齢者になったときに高齢化問題が心配である」と話していたが、常にずっと子育て世代を増やしていけばそのような問題も心配しなくていいと思ったし、それが理想の社会であろう。

そして最後に、南箕輪村の複数の子育て政策の中で、特にいいなと思った下記の「ママの就業お仕事相談」について書く。



やはり、子育て世代の働く母親が安心して暮らせる社会というのが、今の日本が目指している社会であろう。子供は家庭で育てるものだと考える人もいるが、それは、旦那の所得のみで生活できた時代や、核家族化していない時代や、女性がキャリアの夢をあまり持っていなかった時代における理想の話であり、今は全く違っている。

だからこそ、上記のような政策が玉城町にも必要だと感じた。もう子育て政策の手法はあらかた出そろっているので、あとはやろうと思うか思わないか、やるかやらないか、である。

<議会改革について>

玉城町議会では、広報活動の拡充や住民と接する機会を増やそうということを目指し、6月24日に初めての議会報告会を行った。これは議会改革の一環であり、まだその道りは始まったばかりであるが、その道りの参考として、全国的にも議会改革で有名な飯綱町議会へ行って来た。

飯綱町では、議会改革の様々な手法やこれまでの過程を当事者の議員から直接学んできたわけであるが、今回はその細かい内容はあえて書かないこととする。なぜならば、具体的な手法や手段より、もっと根本的な大切なことを理解し固めておく必要があり、それがまだ玉城町議会には出来ていないと感じているからである。

予算との兼ね合いはあるが、「議会活動の住民報告を色々な手段で出来るだけする」や「住民と接する機会を作る」というのは、知る権利や議会制民主主義の役割、また、住民の負

託を受けた代表者の責任として当たり前行為であるが、玉城町議会は全国的に見てもまだまだ不十分であろう。

玉城町議会に限らず、議会改革というのは、この10年程で全国的に活発になってきたものであり、進んでいる議会は数少ない。ではなぜ、進んでいないのか？その理由は上記の理由に反して、憲法や二元代表制などの基本的な事を勉強していない議員や組織の代表者としての自覚がない議員がいることが考えられる。

また、議員自身が自分の労力が増えることをめんどくさがっていることや、人前で話す機会や自分の実績を話す機会が増えると、無知をさらして恥をかくとか、あまり活動していない自分を見せたくない、という底辺の理論を頭の中に持っているからであろう。

ようするに、議員の質が低いからであるが、その議員が選挙で選ばれている事実（実際には無投票が増加しており、民主主義の根幹である選挙自体が行われず、住民が選択する機会もないわけであるが）や議員自身が議員の仕事内容を考えるという仕組み、この2つの根本を直さないと、どうしようもないような気がする。

例えば、議員に基礎的なペーパーテストや研修をする。もう少し優秀な人材を集めるために定数を減らして報酬をあげる。国が地方議会にはこういう広報活動を必ずするという義務付けをする。などがあると思うが、基本的には、良識のある地方議員が自らの判断で、当たり前のことを当たり前にしてほしいと思う。

しかし現実的な手法として、議会改革を検討している非公式の議員の会議や議論の場、各議員の考えを公に見せることで、何かが変わるのかもしれない。なぜなら、住民の前で言うことと住民がいないところで言うことが違う議員がいるし、そもそも議論というものが出来ない議員がいるからである。

当たり前であるが本音と建前があり、もしその会議を住民周知の中ですれば、本当はやりたくない人も、本当は当たり前のことだから賛成しそうだし、公の監視の中で議論すればデタラメな意見を言う議員は有権者を通して淘汰されていくからである。

前に進めていく順序としては、ふわっとした議論をしたり、細かなことを話し合ってもらちが明かないと思うので、まずは議会改革の憲法みたいな位置づけである議会基本条例を作るべきであろう。

そしてやるからには、議論は尽くすが最終的には多数決で進めなければならない。議員全員が賛成で進めていくことが望ましいなんていう目標では、自由な発言が阻害されたり、ほとんどののことで結果が出ないであろうから、それは民主主義社会の目標としては論外である。結果そうなることもあるだろうが、目指すべき目標ではない。段階的にいろいろ

なことを決めていって、反対した人もその結果に従って動いていくのが組織である。

ただ、この当たり前のようなことが地方議会では難しい。なぜなら多数決をするということは、敵と味方がはっきりすることなので、その後の人間関係を考えてそのような状況になるのは避けたいし、何より自分が少数派になりたくないからである。

組織としても、民間企業であれば、利益を拡大するためや、組織を継続していくために多数決という手法を取っていく必要があるが、地方議会は、悲しいかな何もしなくても組織としては残っていくし、改革をしても利益は増えないからである。

しかしながら、自戒を含めてのキツイ言い方になるが、時代は流れているので常に何かを変えていく必要があり、何かを変えるためには争いをしなければならず、その争いを避けている組織は、ただ組織ごっこをしているだけの組織である。何のための組織で、何をするための組織であるのかを、常に最重要に考えて答えを出していかなければならない。



平成29年度 玉城町議会行政視察報告書

玉城町議会議長 様

議席10番 坪井 信義

視察日	平成29年6月28日(水)～平成29年6月29日(木)
視察場所	長野県 南箕輪村議会及び飯綱町議会
視察目的	6月28日【南箕輪村議会】人口の増えるまち 少子高齢化対策について 6月29日【飯綱町議会】 議会改革の取組みについて
<p>今回の行政視察は長野県南箕輪村議会と飯綱町議会を6月28日(水)～29日(木)に訪問した。調査事項として①人口の増えるまち少子高齢化対策について(南箕輪村議会)②議会改革の取組みについて(飯綱町議会)であった。</p> <p>先ず南箕輪村について、人口動態を見ると平成2年に10,666名であったが平成27年には15,063名と5割増しとなっている。長野県の状況からすると考えられない増加だが、担当課長さんに聞くと近隣市町からの転入者が多いとのこと。多い理由として村内企業の立地条件が良く、若者の就労環境に恵まれているため若者世代の転入が多く、村長自身が“子供の元気な声が聞こえる村 女性が働きながら子育てのできる環境を目指して”平成の大合併にも住民投票により自立の道を選択し、村づくりの目標とされている。具体的には、人口増、子育て支援に対する施策について説明を受けた。経緯を見ると平成17年から27年の10年間に6回に渡り保育料の引き下げを行っている。何かしら奇異に思うが、人口増に伴い保育所の増改築を行いながら、児童の受入を積極的に進める中で、保育料の引き下げをし、放課後児童クラブ室の増加を図っている。10年間で人口増が、5割増しという状況の中で施設整備が追いつかないのである。全国的にも珍しい急激な人口増に対して、保育所・小中学校の環境整備は不可欠ではある。しかし、公共サービスの料金はイメージ先行で転出元の近隣の伊那市や箕輪町でも保育料は引き下げられている。住民税も村当局は近隣市町と変わらない水準と説明している。しかし、村は定住化促進事業の積極的な推進を行い、全国的なイベント等を開催し村のアピールを図り、都市部で村の紹介をしながら転入促進に継ぎ就労推進と子育て支援を行政職として取り組んでいる。</p> <p>帰り際に自身も子育て支援・地域づくり推進を担当した経験上、担当課長に聞くと、今は順調に増加する中で対応に追われている村として良い状態ですが、20年後に今の子供達が成人した後、どれだけ村に残っていてくれるか、心配ですと話された。現状に追われながらも将来の村づくり見すえて行っていかなければならないことを強調していた。議会も行政と一体となり、取り組まなければならないと思う。玉城町としても、数の違いはあるが、人口増の町として参考になる部分はあると思った。</p> <p>飯綱町では議会改革の取組みについて研修を行ったが、冒頭にこの町には試合改革の取組みにあたって、カリスマ的存在感のある寺島渉議長が見えることをふれておきたい昨年度全国町村議会議長・副議長研修会においても講義を受ける機会があったが、今回は</p>	

当地におじゃまし直接に面談し、より具体的に議会改革の取り組みを聞くことになった。飯綱町は、「平成大合併」により平成17年10月に、牟礼村・三水村の合併により誕生し長野市に近隣面積75km²、人口1万1600人・米とりんごの生産を中心とした農業が基幹産業の町である。議員定数は15名と人口規模からすると少し多いように思われるが、合併時のいきさつ等も考えられ、致し方ないのであろう？全国的にも珍しい積極的な改革取り組み対し、各地が議会視察がある。平成20年1月におきた第三セクター（スキー場）の破綻をきっかけに行政はもとより議会の責任も問われることを認識し議会改革の検討をはじめられた模様である。その後は「議会力を向上させ町長と切磋琢磨する議会へ」掲げて（学ぶ議会）と（自由討議）が推進力となっている。

議会改革を推進する中で実践を通して明らかになったこととして、議員の意識改革でもある。一過性や単発で終わるのでなく持続的・継続的に実践を積み上げ、活動を定着させることが重要で定数・報酬削減は議会改革ではないと説明を受けたが、確かに本当に大事なものは、議員の意識改革と資質力の向上だと思います。飯綱町議会も取り組みを進める中で、議会力を向上したが議員力向上は今後の課題としている。そして、より具体的議会改革への取り組みを始められ、半年間で30数回の学習会と自由討議を重ね8項目にわたり改革課題を整理し、町民が求める議会増、町民に信頼される議会をめざして、いくつかの項目を掲げ、改革宣言し実践している。私自身が気になったポイントをあげると

- 活発な討論が展開される議会
- 住民の声を行政に反映する努力を貫ける議会
- 町民に対して議会の議決責任と説明責任を果たす。
- 議会の情報公開をさらに進める。
- 議員の政策立案能力を高め、政策提言、条例制定などに取り組む。
- 行政への批判と監視機能を一層強化する。

以上14点にわたる議会増改革宣言の中からピックアップしてみました。

平成24年9月には「議会基本条例」を制定しさらなる地方議会創りをめざしている。詳細な説明であったので、全容にふれることは長くなるので気になる項目を取り上げ報告すると、議会の政策提言活動を重視「政策サポーター制度」新設。

制度の新設について①開かれた議会とするためにも議会活動への町民の参加を広げる。②定数が減少する中で、町民の知恵も借りて政策づくりを協同で進める。参加者43名で、費用弁償として1回3000円支給されるが、この制度は住民参加という視点に立てば素晴らしいと思う。その後6テーマで町長に政策提言を行ってきたそうで、わが町も大いに参考にすべきだと思う。

そして、サポーター中から町議選に立候補する人も出てきており議会に対する関心の深まりがあったからこそ立候補に至ったのではないかと思う。まだまだ状況としては色々あるけれどまとめると冒頭にふれてように寺島議長さんのすぐれた指導力があり、議員間においても反対者はあったと思われるが、多数において議会改革への取り組みの必要性から今に至っていると思われる。とても参考になりました。

平成29年度 玉城町議会行政視察報告書

玉城町議会議長 様

議席11番 中瀬 信之

視察日	平成29年6月28日(水)～平成29年6月29日(木)														
視察場所	長野県 南箕輪村議会及び飯綱町議会														
視察目的	6月28日【南箕輪村議会】人口の増えるまち 少子高齢化対策について 6月29日【飯綱町議会】 議会改革の取組みについて														
<p>【南箕輪村議会】</p> <p>明治8年(1875)に、南箕輪村が誕生して以来合併も無く独立村として今日に至っているが、平成16年には、平成の大合併が全国的に進められるなか、住民投票を行い多くの村民が合併反対を掲げ現在も南箕輪村として、将来推計人口(2040年)に向け増え続ける日本でも数少ない自治体である。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">南箕輪村の概要(平成27年度決算状況)</td> <td style="width: 50%;">玉城町の概要(平成27年度決算状況)</td> </tr> <tr> <td>人口 15,063人</td> <td>人口 15,431人</td> </tr> <tr> <td>人口密度 367人</td> <td>人口密度 377人</td> </tr> <tr> <td>面積 40.99k㎡</td> <td>面積 40.91k㎡</td> </tr> <tr> <td>歳入合計 6,434,070千円</td> <td>歳入合計 6,082,281千円</td> </tr> <tr> <td>地方税 2,089,037千円</td> <td>地方税 2,040,356千円</td> </tr> </table> <p>玉城町と南箕輪村は、決算状況を比べると良く似た値である。南箕輪村は人口統計で平成28年度は長野県下、77市町村中9市町村のみが人口増であり、その中でも人口自然増は南箕輪村のみである。また高齢化比率も23.1%と県下で一番低い。</p> <p>その様な中、人口の増える町、少子高齢化対策をどの様に進めるか、それは村長が就任以来の取組の中心的な考えである、「女性が働きながら子育ての出来る環境づくり」「子育て中心の村づくり」があげられ、具体策として、保育料の引き下げ(就任時から現在まで6回)、福祉医療費の無料化(18歳まで)、大学生への奨学金制度の創設、子育て支援センターの建設、教育支援相談室を設置し相談体制の充実、放課後児童クラブ室の新築・増築、保育園での長時間保育の実施など、一貫した考えのもと早い取り組みが行われている。南箕輪村は恵まれた地理的条件も加わり、「子育てをするなら南箕輪村で」とのロコミも広がり、子育て世代の転入が多く結果として人口増となっている。</p> <p>将来を見据えた政策と実行が無ければ良い結果に結びつかないと改めて実感した。</p> <p>玉城町は田丸城址を中心に発達した自然豊かな風水害の少ない町であり、近隣の(伊勢市・松阪市・津市)に勤務するには、高速道路やJR等の交通網もあり有望な土地柄でもあるが、南箕輪村は村北部の大芝高原(マレットゴルフ場・総合運動場・プール・テニスコート・オートキャンプ場・野球場・温泉・室内運動場・公園・食事所・多目的広場・森林セ</p>				南箕輪村の概要(平成27年度決算状況)	玉城町の概要(平成27年度決算状況)	人口 15,063人	人口 15,431人	人口密度 367人	人口密度 377人	面積 40.99k㎡	面積 40.91k㎡	歳入合計 6,434,070千円	歳入合計 6,082,281千円	地方税 2,089,037千円	地方税 2,040,356千円
南箕輪村の概要(平成27年度決算状況)	玉城町の概要(平成27年度決算状況)														
人口 15,063人	人口 15,431人														
人口密度 367人	人口密度 377人														
面積 40.99k㎡	面積 40.91k㎡														
歳入合計 6,434,070千円	歳入合計 6,082,281千円														
地方税 2,089,037千円	地方税 2,040,356千円														

ラピーロード等)の施設が集合体であり、村民が一日を過ごすことが出来る素晴らしい施設がある。玉城町に於いても総合的な住みやすさを考えると、町民がゆっくりと安全に時間を過ごせる総合的な公園整備計画を考えさせられるような「大芝高原」施設であった。近隣市町の住民が、玉城町で住みたい・住んでみたいと思うことを、これから一つでも多く作り出すことが、玉城町の発展の大きな鍵になると考える。

【飯綱町議会】

今回、飯綱町を視察することは、玉城町議会の議会改革にとって大きな意義があると考えられる。玉城町議会は、平成29年6月24日(土)に玉城町議会として、初めて議会報告会「議員と語ろう会」を開催し、その熱も冷めやまぬ状態で、飯綱町の議会改革の進め方を、寺島議長に聞くことができた。

飯綱町は、平成17年に2村の合併により町制を施行した町で、米とりんごの生産を中心とした農業が基幹の町で、人口11,643人(平成28年3月31日)で、面積は75k㎡で一般会計予算は約69億円である。人口減少が進む長野県北部の中山間地域の町である。飯綱町議会の中心的な考えは「議会力を向上させ町長と切磋琢磨する議会」(学ぶ議会)と(自由討議)が推進力であると書かれている。

議会改革への動機が、第三セクター「飯綱リゾート開発㈱」が突然経営破綻し、損失補てん(8億円)を支払うことになった事を受け、住民から厳しい批判を議会が受け、議会の機能(チェック)が果たされていたのか説明責任が問われた。議会として、何をすべきかを考える中で、議会改革が進められた。

その様な状況の中、寺島議長から多くの取り組みを伺ったが、その中でも特に思うことを明記する。

◇議会改革の到達点と今後の課題

議会改革は、議員の意識改革でもあり、最終的には議員力の向上が課題であり、定期的な学習会が必要。

議員の研修は、重要な課題である、今後の課題として、玉城町議会でも政務活動費の導入も含め検討することが必要と考える。

◇自由討議の取組み

議会にとって、この取り組みは議員にとって議案や議題に対してお互いに論議をつくり議員個々の考えを導き出すための議論の場として重要。

玉城町議会としても進め方を参考として大いに取組みたい項目の一番手である。

◇二元代表制へのこだわり

議会が提出された議案に対しての追認機関からの脱出、議会と町長は、町民の福祉向上の為に、切磋琢磨し町行政の発展を考えなければならない。

◇議会としての「予算・政策要望書」を町長に提出

議会として、毎年12月頃に、町総合計画に基づき要望書の提出を行い予算に対して考え方を求める。

玉城町議会としても、予算編成に関してもっと参画すべきと考える。

◇政策サポーター制度

この制度は、私にとって初めての考え方である。制度新設の理由は①開かれた議会とする為にも議会活動への町民参加を広げる②議員定数が減る中で、町民の知恵も借りて政策づくりを共同で進める。

政策サポーター制度を活用し、町長に政策提言書を出す事で住民参加を広げる。

玉城町議会としても、検討すべき内容と考える。

飯綱町議会は、多くの取り組みを順序良く考え計画的に達成されている。玉城町議会がこれから、議会改革を進めることは重要なことと考えるが、取り組み内容の整理と達成時期を明確に設定し進めることが重要と考える。

南箕輪村議会・飯綱町議会には議会広報誌が当たり前の様にあるが、玉城町にはまだ無い、玉城町議会でも検討は行ったが発行までには至らなかった、町民に議会で行っていることを、より多く伝えようとするならばツールは多いほうが望ましいと考える。

「議会基本条例」は、南箕輪村議会も飯綱町議会も制定をしているし、全国的にも多くの議会が取り入れている、「議会基本条例」をつくる事がすべてとは考えないが、玉城町議会として、取組むべき事柄を一つ一つ整理し、取組み実績を重ね議員総意のもと「議会基本条例」を制定すべきと考える。

平成 29 年度 玉城町議会行政視察報告書

玉城町議会議長 様

議席 12 番 風口 尚

視 察 日	平成 29 年 6 月 28 日 (水) ～ 平成 29 年 6 月 29 日 (木)
視察場所	長野県 南箕輪村議会及び飯綱町議会
視察目的	6 月 28 日【南箕輪村議会】人口の増えるまち 少子高齢化対策について 6 月 29 日【飯綱町議会】 議会改革の取組みについて
<p>《南箕輪村の概要》</p> <p>西に中央アルプス連峰の経ヶ岳・駒ヶ岳、東に南アルプス連峰の仙丈ヶ岳、東駒ヶ岳を望み、伊那谷の一番広い平地の中心に位置する。長野県南部、天竜川の上流に位置し日本のほぼ中心にある、面積 40,99 k㎡、人口 15315 人の村で明治 8 年に南箕輪村としてスタートして以来、合併することなく今日に至っている。</p> <p>■ 子育て支援施策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保育園保育料の引き下げ <ul style="list-style-type: none"> ◎ 平成 17 年度 5%引き下げ ◎ 平成 18 年度 3,8%引き下げ ◎ 平成 19 年度 4,2%引き下げ ◎ 平成 20 年度 3,5%引き下げ ◎ 平成 24 年度 2,07%引き下げ ◎ 平成 26 年度 約 5%引き下げ (長時間保育料) ◎ 平成 27 年度 総額 8,4%引き下げ (保育料 6.4%多子世帯 2,0%) ○ 子育て支援センター設置 (すくすくはうす設置し、子育てアドバイザー配置) ○ 福祉医療費無料化 (18 年度就学前⇒小学校 3 年生までの児童の医療費を無料化) <ul style="list-style-type: none"> (19 年度 6 年生までの児童の医療費を無料化) (20 年度 中学 3 年生までの児童の医療費を無料化) (25 年度 高等学校 3 年生までの生徒の医療費を無料化) ○ 放課後児童クラブ施設新設 (南箕輪小学校に新設) ○ 放課後児童クラブ施設増築 (南部小学校に増築) ○ 放課後児童クラブ利用料引き下げ (約 50%引き下げ) ○ 奨学金助成制度の開始 (就学のための教育資金利子・保証料の補給金助成) ○ 子育て教育支援相談室の設置 (児童・保護者のあらゆる相談を受け付ける相談室) ○ 病児・病後児保育事業 (病児・病後児のための保育事業「いちごはうす」の開始 (翌年 24 年度無料化)) 	

- 療育施設「たけのこ園」開園（児童発達支援事業）
- 南箕輪村こども館（総合的な機能を備えた子育て拠点施設）
平成 28 年度建設着工 平成 29 年 7 月 6 日竣工式

■ 人口増、定住促進に対する取り組みについて

- 第 4 次総合後期計画の策定にあたり、新たなコミュニティの組織について検討し、自助、共助、公助の役割を基本として協働の村づくりに取り組む。
- 平成 23 年度 村内の自治会組織の末端（227 組）まで出向いて説明会を開催。
- 平成 24 年度 自治会組織の未加入世帯を対象とした説明会の開催。
- 一戸建てに転入する世帯には、転入届時に職員（地区相談員）が自治会組織を説明し加入促進を図る。
- 自主防災組織は全地区で設置しているが、一部の区では自治会の加入・未加入に捉われず道路等で班分けを行い、企業を含む全員が加入している。
- ボランティア組織の育成（まっくん除雪隊・まっくん生活支え愛事業）

〔所見〕

「働きながら子育てを」との、村長の強い思いで、子育て支援に取り組んでおられる。保育料を数回に渡り引き下げをされたり、第二子は半額、第三子から無料である。また、医療費も 18 歳以下は無料と大胆な施策をされておられることに村長の子育てに対する強い意志を感じる。それにより人口の増える村、特に自然増に目を見張るものがある。ただ、要因は転入者の増であり、しかも近隣の町からだそうである。このあたりが課題とのこと。そして、子供たちが増えることにより保育園、学校が足りない、したがって保育園、学校の整備が必要になり費用の捻出に大変かとお察しするところである。

《飯綱町の概要》

飯綱町は長野県北部に位置し、北は信濃町、東は中野市、西南は長野市に隣接し、面積 75 km² 人口約 11600 人。米とりんごの生産を中心とした町で平成大合併により平成 17 年 10 月に牟礼村、山水村の合併により誕生した。

■ 議会改革の取り組みについて

- 8 項目の議会改革
- ◎ 一般質問に一問一答方式を導入、町長には反問権を認める。
- ◎ 町民に対して議会の議決責任と説明責任を果たす。
- ◎ 議会への住民参加を広げる。
- ◎ 議会の情報公開をさらに進める。
- ◎ 議員の資質向上に努め議員同士の自由討議を活発に行う。
- ◎ 議員の政策立案能力を高め、政策提言、条例制定などに取り組む。
- ◎ 行政への批判と監視機能を一層強化する。

- ◎ 政務活動費を条例化し、政策研究、町民への広報活動等に活用する。
- 「政策サポーター制度」を新設
- ◎ 議会活動への町民参加を広げる
- ◎ 町民の知恵を借りて政策づくりを協働ですすめる。
- ◎ 延べ参加者43名、費用弁償として、1回3000円支給
- 開かれた議会、議会への住民参加を広げ「議会の見える化」
- ◎ 模擬議会・休日・夜間議会を開催
- ◎ 町民と議会との懇談会（8年間（20年～28年）19箇所、307名）
- ◎ 「議会だより」モニターを131名組織（議員のいない集落から人選）
- ◎ 議員報酬・定数議論をさらに深めるために（住民の意見を踏まえて、議会として責任を持って決定する）

〔所見〕

「議会力を向上させ町長と切磋琢磨する議会へ～「学ぶ議会」と「自由討議」が推進力～」とのテーマで町村議会特別表彰を受賞された議会である。

まず、寺島議長の自信たっぷりの言動に、流石だなという印象である。

議会基本条例を平成24年9月に制定されていて「条例を制定するのが目的ではなく、制定した後の運用していくことが大切」そのような意味合いのことを言われていたが全く同感である。議会改革の取り組みについては特に特色があるとは思はないが、政策サポーター制度については初めて出会った取り組みであった。玉城町に合うかどうかかわからないが、集落の活性化にはすばらしい制度だと思う。また、サポーターから議員に立候補される人がいるとのことで議員の成り手不足の解消策になっていることも評価できる取り組みである。総体的には非常に活発な議会であると感じているが、果たして行政側との関係はどうかと、やや心配な部分もある。

さて、議員報酬であるが、月額160000円とは全国町村議会でも低額な議会であろう、少し可哀そうな気がする。ただ期末手当については支給率も加算率も高いし、日当1700円が支給されていることにより調整されているのかと思う。

平成29年度 玉城町議会行政視察報告書

玉城町議会議長 様

議席13番 奥川 直人

視察日	平成29年6月28日(水)～平成29年6月29日(木)
視察場所	長野県 南箕輪村議会及び飯綱町議会
視察目的	6月28日【南箕輪村議会】 人口の増えるまち 少子高齢化対策について 6月29日【飯綱町議会】 議会改革の取組みについて



《視察行程》

6月28日

7:30 出発——13:30～15:30 南箕輪村役場『視察』
——長野市内(宿舎)

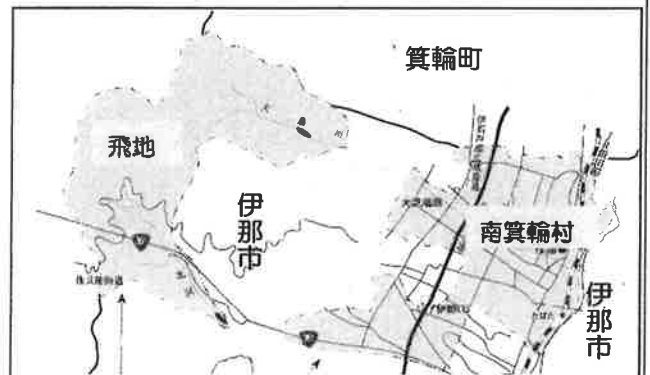
6月29日

8:00 出発——9:00～11:00 飯綱町議会『視察』
——19:40 玉城町着

《南箕輪村の人口の増えるまち少子高齢化対策について》

南箕輪村は長野県上伊那郡北部に位置し、西に中央アルプス、東に南アルプスを望み、広い田園地帯と山岳地帯をもち、分村・合併も無く144年、稲作中心であったが、中央自動車道開通により東京・名古屋まで2.5時間と時間的距離が短縮され、産業構造が工業へと変化してきた。

もう一つの特徴は、面積の半分以上を占める人の住まない森林の飛び地を持つ珍しい自治体であり、箕輪村の周辺を箕輪町と伊那市に取り囲まれた村であり生活環境は周辺市町と何ら変わらず不便さを感じない。また、保育所5園、小学校2校、中学校1校と上伊那農業高等学校、南信工科短期大学、信州大学農学部がある。



工業生産は長野県全体も盛んであるが、南箕輪村においても電子機器や生産用機器など事業所数も多く就業人口も多い。商業も人口が増えることや伊那市と隣接することなどから年間商品販売額は安定した販売推移となっている。農業では農家数は減少しているが玉城町ほどでもない。

《玉城町との比較》・・・本当に玉城町によく似た町です。

	面積km ²	人口	歳入額百万円	町税百万円 村税	交付税百万円	財政力指数	産業構造 1:2:3次産業
南箕輪村	41.0	15,155	6,434	2,089	1,446	0.58	8:40:52
玉城町	40.9	15,431	6,082	2,049	1,375	0.59	7:36:57

《人口の増えるまち》

まず、世帯数平成7年4,069⇒平成27年5,839 プラス1,770世帯、人口は同年12,133⇒15,063 プラス2930人で、人口の自然動態・社会動態ともに増加し、高齢化率は県下NO1に低く

23. 1%と人口構造も大変バランスが良い。

なぜ人口が増えるのか、南箕輪村は昭和 50 年代から企業誘致を推進したこと、農村から工業主体の村となり村民の安定した収入が 税収増加につながり健全財政を築いてきた。

そのような中で働きながら子育てが出来る環境づくりとして保育料の値下げを 6 回行い料金は 15 階層に区分、児童 2 人目半額、



3 人目無料、18 歳までの医療費無料化や大学生の奨学金制度創設、病児病後児保育「いちごはうす」や発達障害傾向の児童への療育施設事業など推進してきた。当然放課後児童クラブ等は全園 (5 園) で時間外保育含め行われきている。

子育て環境など隣接市町で鎬を削る状況と言えるが、他に何と言っても宅地とすべき土地が安いこと伊那市の半分で 19,000 円/㎡、また住民税は近隣市町と変わらないが、伊那市とは都市計画税分だけでも税金が安いと言え、子育て環境に少し差を付けることで転入者が増え人口が増に転じる町と言える。この村の今後の課題として、人口増加に対する保育所・小学校・中学校の増改築・給食施設等の増築と、人の住む南箕輪村 (20 ㎢) の高齢者の移動手段、また転入者が増えることで地域コミュニティーや自治会への加入率の低下等課題とし取り組みを行っている。全国自治体が人口減少への地方創生を唱える中、この村のみが人口増への対応施策を講じて行く計画であると言う。(対応者：唐木町長、南箕輪村議会丸山議長・・・他)

《視察を通じ》

人口増加の南箕輪村のことは聞いていましたが、視察を通じ実際にこのような自治体が有るのかと驚いた次第です。

財政は企業誘致や企業に就業する人口が多く安定しており、村の面積は 40 ㎢であるが人の住む面積は 20 ㎢とコンパクトで、伊那市と隣接しており生活環境やスタイルは市と何ら変わらず、土地も税金も安い、働き子育て出来る環境づくりに少し差があれば、他市町からの移住等人口が増える村となっている。

何と言っても立地条件(村として 144 年守った)の良さに恵まれ、今後将来まで継続しそうな気がしますが、人口増の主な要因は近隣市町からの移住者で近隣市町村間での地域間競争でなく、将来県外移住者の増加に向けた南箕輪村の政策にも期待したいところです。

《飯綱町議会・議会改革の取り組みについて》

	面積㎢	人口	歳入額百万円	町税百万円 村税	交付税百万円	財政力指数	産業構造 1:2:3 次産業
飯綱町	75.0	11,063	7,221	1,074	3,453	0.29	26:23:51

飯綱町は平成 17 年牟礼村と三水村の 2 町合併で誕生、長野県北部に位置し、農業が中心で主な農産物は、米とリンゴが有名で全国のリンゴ出荷量約 1%を占め他ブドウ、モモ、ナシなどが生産され野菜は町の西部標高 900m のところでレタスやキャベツなどの高原野菜が生産されて、観光農園や農産物やワインやジャムなどの 6 次産業化



も進んでいる。・・・工業・商業などさほどでもない。

《飯綱町議会について》

議会改革の到達点として（飯綱町議会改革8年の実践で明らかになったこと『議会改革は、議員の意識改革でもある。一過性や単発では不十分で持続的・継続的に実践を積み上げ、活動を定着させることが重要。定数や報酬削減は議会改革ではない。』）と寺島 渉議長はかたる。

平成28年2月5日、全国町村議員会館（東京都）において、これから述べる先進的議会改革の成果が総合的に評価され特別表彰を受賞。

現在の議員定数は13名、議員報酬は安く16万円/月額、議長報酬26万9千円/月額、常任委員会構成は総務産業常任委員会、福祉文教常任委員会、予算決算常任委員会と議会運営委員会さらに特別委員会として議会報編集調査特別委員会、議員定数・報酬等調査研究特別委員会、そして今年から地方創生調査研究特別委員会をつくり、議会事務局職員は2名となっている。

《飯綱町議会の議会改革について》

平成20年1月の合併直後、旧牟礼村の第三セクター「飯綱リゾート開発(株)」が突然破産、裁判で町が全面敗訴。

8億円の支払いを命じられ、その結果住民からの議会のチェック機能に対する厳しい批判を受け議決責任と説明責任が問われた。

平成20年11月、第1回町民との懇談会及び議会改革についてのアンケートを行い議会改革の出発点となる。



【町民が求める議会像】

- ①住民に開かれた議会
- ②町長と切磋琢磨する議会
- ③活発な討議が展開される議会
- ④住民の声を行政に反映する努力を貫ける議会
- ⑤町民の住民自治の推進力となれる議会
- ⑥政策提案のできる議会

【議会として町民から信頼される議会改革の8項目の宣言】

- ①一般質問に一問一答方式を導入(玉城は導入済み)、町長に反問権を認める。
- ②町民に対して議会の議決責任と説明責任を果たす。
- ③議会への住民参加を広げる。
- ④議会の情報公開を更に広げる。
- ⑤議員の資質向上に努め議員同士の自由討議を活発に行う。
- ⑥議員の政策立案能力を高め、政策提言、条例制定などに取り組む。
- ⑦行政への批判と監視機能を一層強化する。
- ⑧政務調査費を条例化し、政策研究、町民への広報活動等に活用する。

上記目標を達成するため議員が一丸となって多くの取り組みを行って来ている。

- ①飯綱町議会基本条例の制定(平成24年9月制定以降改正2回)
- ②質疑の回数を制限なしに(会議規則改正)
- ③議会として「町の総合計画」に基づき「予算・政策要望書」と町長に提出
- ④一般質問で町長が検討を約束した課題について、結果報告を書面で求める。
- ⑤議案に対し否決、修正、不承認等も実施してきている。
- ⑥議会の住民による「政策サポーター制度」を設け、議会からの政策提言活動に繋げている。
- ⑦模擬議会・休日議会・夜間議会等を開催し、将来の開かれた議会づくりを模索している。
- ⑧「議会だより」を発行している、その内容に読者モニター57名を組織化し紙面改善につなげている。

《視察を通じ》

飯綱町議会は過去の行政チェックの甘さから厳しい批判を受けたことから、議員一丸となり

真のあるべき議会・あるべき議員を目指し取り組んで来た結果である。

特に行政を知るため総合計画や将来にわたる財政計画、そして地方創生調査研究など基本の部分はしっかり押さえチェックしており少し玉城とは違う。

玉城町議会も平成20年7月北海道夕張郡栗山町議会及び夕張市議会を議会改革の目的で視察した。その内容を『玉城町議会視察報告』にまとめ住民に配布、同時に「議会改革・活性化委員会」を設置し当時、質疑回数を増やすとか、議員研修及び資質向上の必要性や政務調査費の必要性、議会報告会や議会だより発行など約10年前に議論していたこと、そして1年半継続したこの委員会も乗り切れず途切れてしまった事を思い出し、現在続けているテーマを設けた議員懇談会の定例化(議員間討議の場)はその時出来た唯一成果です。

これまでの議員像と今後求められる議員像は大きく違って来ている、各議員が町の課題を認識し何とかしなくては・・・ここが出発点！でここからが議員の資質発揮、問題点の課題分析や改善案・方法など(政策づくり)が生まれてきます。

これらの課題を議員の集合体である議会として共有し町のために、2元代表制を生かし何が出来るのか議会改革の原点といえます。・・・これらのことを改めて感じた幸いです。

(以上)